

「黒高マイボランティア宣言」

1. 活動の概要

(1) 被災地高校支援

4月18日、今回の震災で被災した石巻工業高校と、石巻好文館高校を生徒会や運動部のメンバーが訪問し、校舎の洗浄作業等を行ってきました。同じ県内の高校生が1日でも早く授業が再開できるように活動して参りました。また、校内で募った義援金と学用品や体育用のフロアシートを持参しました。

(2) 東京都ボランティア支援

東京都ボランティアの皆さんの活動拠点として、本校同窓会館を無償で提供させていただきました。4/29～5/17までの期間に4隊(約160名)の東京都ボランティアの方々が、本校を拠点に東松島地区を中心に復興作業に取り組みました。生徒会は東京都ボランティアの方々の御慰労を兼ね、黒川産の美味しい米と野菜たっぷりの芋煮を用意して交流会を開きました。65才の方から20才まで、職業も年齢も様々なボランティアの方々と意見を交換しながら有意義な時間を過ごすことができました。

(3) 大和町サマー(ウインター)スクールボランティア

生徒会が、夏休み・冬休み中、町内の小学生を対象とした学習支援事業にボランティアとして参加し、小学生への学習補助を行いました。震災のために授業開始が遅れ、学習の遅れやつまづきを補うため、本校生徒会が自主的に小学生の学習支援を行い、町教委からも感謝されております。

(4) 本の読み聞かせボランティア

図書委員会が定期的に近隣の小学校で本や紙芝居の読み聞かせを行っています。震災で本を読む機会が少なくなったり、不安な気持ちを持っている小学生に優しく読み聞かせています。次回の訪問を心待ちにしている児童もおります。

(5) 茶道ボランティア

10月25日、茶道同好会5名が特別養護老人ホーム杜の風(富谷町)を訪問し、お手前を披露しました。震災で不安な気持ちを抱いているお年寄りに

宮城県黒川高等学校

少しでも役立てればと企画しました。皆さんにもたいへん好評でした。

2. 活動の成果等

本校は宮城県の中央部に位置しておりますが、校舎の被害も少なく、自宅が倒壊した生徒も少なかったこともあり、震災直後から生徒会が中心になり被災地校支援の機運が高まりました。更に被災地だけでなく、近隣の小学生やお年寄りの役に立てるような自主的な活動が始まりました。

生徒達は、ボランティア活動を通じて「自分たちが役に立っている」「感謝されている」という実感を生まれて初めて味わい、自分の存在意義を再確認したり、自己肯定感を持つようになりました。目標もなく、何となく毎日を送っていた生徒も、「就職して社会のために働きたい」、「進学して高度の知識を身に付けたい」と高い進路意識を持つようになった生徒もいます。



東京都ボランティアとの皆さんと



読み聞かせボランティア